

団体名	地球の子ども通信	略称	CCE
外国語表記	Children's Communication on Earth		
代表者	【役職名】 会長 【氏名】 芳賀 節子		
団体格	任意団体		
設立	1992年6月14日	会計年度	4月1日から3月31日まで
事務局	【役職名】 会長 【氏名】 芳賀 節子 所在地 〒981-3213 仙台市泉区南中山1-24-5 TEL (022)376-5382 FAX (022)376-5382 E-mail nra55237@nifty.com URL http://www.cce-sendai.jp/		
会員数	役員 26人	団体会員 団体	個人会員 110人 有給職員 人
年会費	団体 / 円	個人 /	3,000円
財政	基本財産 / 千円 年間事業費 / 4,431千円		
設立目的	地球上の子ども達の国際親善、及び次世代へ向けて子どもレベルでの国際交流を深めることを目的とし、会員相互の交流と研修を重ね、より良い子ども環境をつくる。		
主な事業	<p>これまでの国際交流事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ●子ども達による招聘、派遣国際交流事業48回実施（1993年～2014年） <ul style="list-style-type: none"> ・シンガポール、日本の小学生による招聘、派遣ホームステイプログラム（1993年～現在 招聘10回、派遣13回） ・インドネシア、日本の中学生による招聘、派遣ホームステイプログラム（1995年～現在 招聘8回、派遣3回） ・香港の小学生との招聘、派遣ホームステイプログラム（2002年～現在 招聘5回、派遣5回） ・日本の高校生によるシンガポールホームステイプログラム（2004年） ・日本の中学生、高校生によるカンボジア小学校訪問事業（1997年、2000年） ・日本の中学生によるラオス訪問事業（2012年3月） ・「アジアの子どもたちと3.11からの世界」（参加国/シンガポール、ラオス 2012年12月） ・ラオスの子ども達による招聘事業（2014年2月、12月） ・「被災地訪問から学ぶこと、共に助け合うこと、未来に活かすこと」被災地訪問とまとめ会議ーインドネシアの子ども達と共にー（2015年6月） ・「ニューヨーク州立大学学生と日本の子ども達との文化交流プログラム」（2013年7月、2014年7月） ●地球の子ども通信10周年記念事業「地球の子ども通信国際子ども会議 in Miyagi」（2002年12月 参加国/日本、シンガポール、インドネシア、カンボジア、香港 参加生徒数/118名） ●地球の子ども通信15周年記念事業「第2回地球の子ども通信国際子ども会議 in Miyagi」（2006年11月 参加国/日本、シンガポール、インドネシア、カンボジア、香港、ラオス 参加生徒数/108名） ●地球の子ども通信20周年記念事業「第3回地球の子ども通信国際子ども会議 in Miyagi」（2012年12月 参加国/日本、インドネシア、ラオス、香港、シンガポール 参加生徒数/50名） <p>*これまでのホームステイ交流事業に参加した生徒数 648名 引率者 168名 （日本/生徒202名 引率81名、シンガポール/生徒201名 引率37名、 インドネシア/生徒87名 引率18名、香港/生徒97名 引率14名、カンボジア/生徒12名 引率3名、 ラオス/生徒37名 引率11名、アメリカ/生徒12名 引率4名）</p> <p>*ホームステイ交流事業の際に訪問した宮城県内の学校数74校（小学校60校、中学校14校）</p> <p>*ホームステイ交流事業に参加したホストファミリー数 545家族 （日本339家族 シンガポール145家族 インドネシア15家族 香港45家族 カンボジア1家族）</p> <p>その他の国際交流活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ●子ども達のためのホームステイ研修会、ホストファミリーのための研修会、語学研修（英語、インドネシア語、中国語、ラオス語）。交流国の生活文化・歴史について <日本・宮城県 仙台市の文化、歴史、産業についての研修、etc.> ●子ども達によるスピーチ大会<国際交流体験を通して> ●留学生との交流会、勉強会 ●国際交流文化事業 「おりがみワークショップ」 「CCEの子ども達によるはがき原画展&シンガポールの子ども達による3.11被災応援メッセージ絵画展」など ●会報「CCEだより」発行（年4回） ●運営資金活動 オリジナル絵ハガキ、カード製作・チャリティコンサート・チャリティバザー・野菜、花バザー 		
一言PR	継続交流を通して培ってきた地球の子ども通信と交流国との信頼関係が、子ども達を安心して相互に託し合える場となっている。子ども達に与える教育的役割は大きく、世界観を拓き文化相互理解の芽を育てている。日本を始めアジアの交流国から寄せられる期待感はとて大きい。（ホストファミリー、学校関係者、子ども達はもちろんのことである）		